

わざと表現 日本画の技法案内

会 期 2005年7月2日(土)～8月31日(水)

「日本画」は明治時代になって文化の洋風化が進むなかで、油彩や水彩などのいわゆる洋画・西洋画に対して、日本の伝統的な技法に従って描かれた絵画という意味で定義された言葉です。一般には、墨や岩絵具などの顔料を、膠によって絹や和紙に定着させるものを日本画と呼んでいます。長い年月に培われた伝統的な技法を守りながらも、独自の表現技法を模索し、変貌をとげながらその時代に生きつづけ、今日に引き継がれてきました。現代の日本画のなかには、その伝統を継承しつつも、一見すると洋画と見間違ふほど絵具を厚塗りした作品や、従来にない表現で描かれている作品などがあり、より多様化しています。

本展では、日本画の2大筆法である、線が主体の「鉤勒法」と色が主体の「没骨法」の作品や、金の箔・泥・砂子の使用による装飾効果の違い、ぼかしやにじみなどの伝統的な技法から現代日本画のさまざまな表現を紹介し、日本画への理解を深めていただきます。

会 場 高崎市タワー美術館 (370-0841 高崎市栄町3-23 電話 027-330-3773)

時 間 午前10時～午後6時 (入館は午後5時30分まで)

金曜日のみ午前10時～午後8時 (入館は午後7時30分まで)

休 館 日 毎週月曜日 (祝日の場合は開館、翌日休館)

会期中の休館日：7/4・11・19・25、8/1・8・15・22・29

観 覧 料 一般：500円(400円)、大高生：300円(250円)、中小生：200円(150円)

- ()内は20名以上の団体割引料金
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方、および付き添いの方1名、65歳以上の方、未就学児は無料となります
- 市内に居住する小中学生については、毎週土曜日は無料となります

主 催 高崎市タワー美術館

後 援 朝日新聞前橋総局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞東京本社前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、ラジオ高崎

企画協力 山種グループ

関連事業

- 作品解説会 7/2、7/16、7/30、8/13、8/27 14:00～